

神戸YWCA『地域日本語教育実践プロジェクト』B

概要：

- ◆ 地域住民と地域在住外国人の「共生」を目指す。
神戸市中央区は、外国人住民の割合が10%にもものぼる。
神戸YWCAとの、行政（区役所・神戸市社会福祉協議会）、地域（自治会や民生委員）、NGOの連携による、「共生」のための以下のプログラムを実施した。

- ◆ 日本語教室の設置
日本語を母語としない外国人生活者（日本国籍含む）は、地域住民との共通言語（日本語）を持たないため、コミュニケーションの不足が生じ、相互理解を得られない。短期間で効果的に生活に役立つ日本語が学べる、プロ教師による日本語教室の設置。

- ◆ 地域住民(日本人側)のための、「やさしい日本語」の取り組み
日本人側が、外国人とコミュニケーションを取るためのスキルを身につけることも必要。
地域や神戸YWCAバザーにおいて「やさしい日本語」の講座が実施できた。(写真参照)

- ◆ 行政の職員対象の「やさしい日本語」の取り組み
神戸市中央区役所の職員 160 名が出席、窓口対応の日本語について、ワークショップを実施。外国人住民とのコミュニケーションについて気づきがあった。(写真参照)

- ◆ 集大成としてのイベントの実施：地域のお祭りの参加（26 年度）
地域の祭りに出すいろいろなブースを、日本語学習者が地域住民とともに担当する。
互いにコミュニケーションを取りながら、客に対応するという試み。
結果は大成功で、互いに相手の日本語を理解し、楽しくスムーズに実施された。(写真参照)

以上の取り組みのうち、主に「やさしい日本語」の取り組みを、紹介したい。

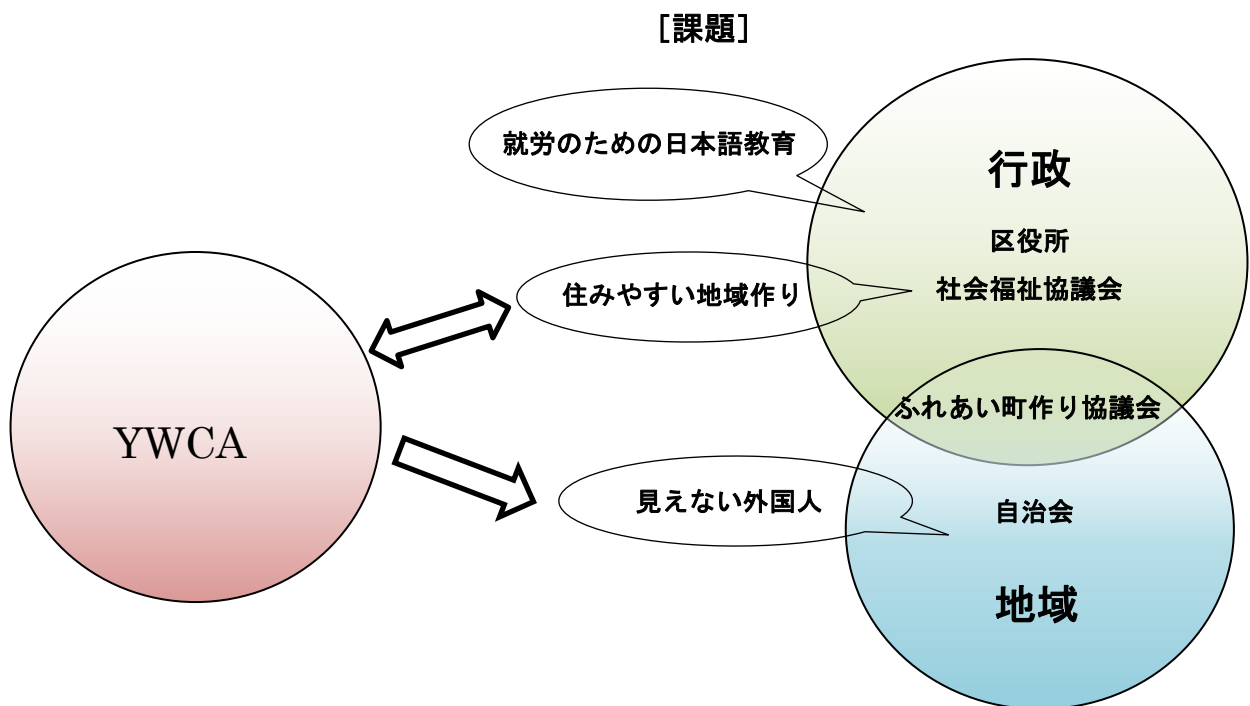
日本人が学ぶ

「地域における”やさしい日本語”普及活動」

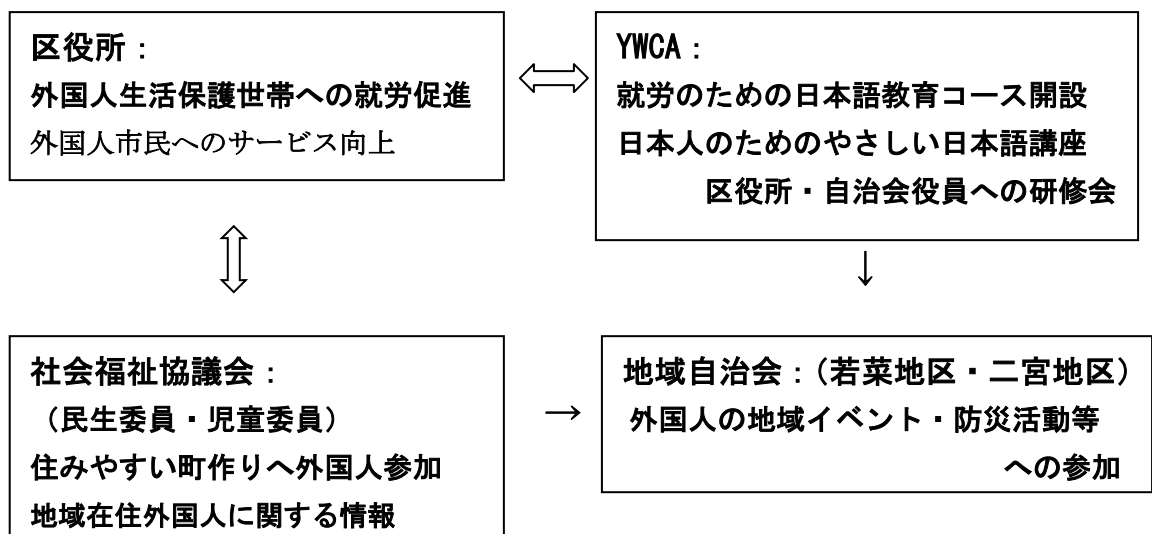
外国人との共生を目指して

—神戸 YWCA の試み—

1. 連携の構造と課題



2. ニーズと出会い



3. 活動実態



「やさしい日本語講座」

- ・ 中央区役所職員研修
- ・ 窓口を中心とした、外国人利用者への対応
- ・ 翻訳・通訳紹介以外の対応模索
- ・ 40人×4回の実施

〈中央区役所〉

「やさしい日本語講座」

- ・ 40人参加
- ・ ゴミ出し等、外国人とのトラブル経験
- ・ 誰がどこに住んでいるのか、顔が見えない
- ・ 防災訓練等への参加促進



〈若菜地区自治会〉



〈神戸YWCAバザー〉

「やさしい日本語講習会」

- ・ YWCAバザー参加日本人に「やさしい日本語」講習会
- ・ 5人×4回
- ・ 英語や通訳によらない、外国人へのアプローチ法


「外国人の地域活動参加」

- ・ 単なる参加者としてだけでなく、準備段階から参加
- ・ 準備活動でのふれあいとコミュニケーション



〈二宮神社・二宮地域センターお祭り〉

4. 講習会使用資料(地域住民対象)



 外国人とのコミュニケーションのための
 異文化体験と
「やさしい日本語」講座

「やさしい日本語」とは
外国人にとって「わかりやすい日本語」のことです。

地域で暮らす外国人に何かを伝えたいとき、私たちはどんな日本語で話せばいいのでしょうか。この講座では異文化体験をきっかけにして「やさしい日本語」、そして外国人との暮らしやすい地域づくりを考えます。

となりに越してきた外国人家族。もし地震が起きたら、どうしはるんやろ?

ゴミの出し方が違うんやけど、どない言うたら、ええんやろ?



「津波が来たら、高台へ避難」っていう看板見たけど、通じるんかな?」

神戸YWCAではこの講座の「出前授業」を実施しています。
 関心をお持ちの団体やグループの方、ぜひご相談ください。
 (交通費などの実費はご負担をお願いします。)

主催：神戸YWCA 学院日本語コース
 Tel: 078-231-6201 Mail: office@kobe.ywca.or.jp

「やさしい日本語」とは
外国人にとってわかりやすい日本語のことです。

現在、日本では192か国、約204万人の外国人が暮らしています[※]。皆さんがお住まいの町や地域でも外国人を見かけることは普通のことになっているのではないのでしょうか。普段の生活の中のゴミの出し方から震災や火災など緊急時の情報提供まで、ことばや文化の壁を越え、彼らとうまく理解し合い、住みよい社会を作っていくことは、私たち日本人の課題であると言えます。

ことばはコミュニケーションツールとして最も重要なものの一つです。彼らと話すとき、なんとなく、外国人だから日本語が通じないんじゃないか、とか、外国人だから英語で話しかけないといけないんじゃないか、などと思っではないでしょうか。実際はそうではなく、私たちが普段使っている日本語に少し工夫をすれば、伝わることも多いのです。

外国人とともに住みやすい地域づくりを考えるとき、日本人自身が「やさしい日本語」を意識することはとても大切なことだと思います。YWCA学院では「やさしい日本語講座」と題し、クイズや異文化体験のワークショップを通じて、「やさしい日本語」に馴染み、外国人とともに暮らす「共生社会」について考えていけたらと思っています。

※法務省入国管理局「在留外国人統計 2012年末」より

ちょっと読めし
やさしい日本語


☆つぎの言葉をやさしい日本語にしてください。

① 和食


② 「そこに ゴミ捨てたら、あかんがな。こっちこっち」

答えはいろいろ。例えば、

① 日本のりょうり。② 「ゴミをすてるとき、ここ。」



案外、難しいものね



あっ、わかった!!

※今までにこんなところで実施しました☆
 若菜地区ふれあいまちづくりセンター (協力: 神戸市中央区社会福祉協議会)
 神戸YWCA ハザー



THE 2014 "WELL-CARE" MODEL
—BY WOLFE—

DEFINING

WELL-CARE

WELL-PROFIT

THE 2014 "WELL-CARE" MODEL

WELL-CARE

WELL-PROFIT

WELL-CARE

WELL-CARE

WELL-PROFIT

WELL-CARE

WELL-PROFIT

Documents and papers on the table in the foreground.